

## 【全国納税貯蓄組合連合会優秀賞】

### ふるさと納税が繋ぐ私の想い

中津市立耶馬溪中学校

三年 香内 芙蓉

ある日、家に帰ると母が明るい声で「蟹が届いているよ。」と言ってきました。私は驚いて「えーどうしたの。」とすぐに返事をしました。母から「ふるさと納税で頼んだんだよ。」と聞いて、初めて「ふるさと納税」という制度の存在を知りました。ふるさと納税とは、都道府県や市町村に寄付をすることで、その寄付金が所得税や住民税から控除され、さらに地域の特産品をもらえるという制度です。

この話をきっかけに、私はふるさと納税について興味を持ち、少し調べてみることにしました。ふるさと納税とは「ふるさと」と書いてあるように自分が生まれ育った地域だけに対して行うものだと思っていました。しかし、調べてみると、ふるさと納税は自分のふるさとだけでなく、応援したいと思う地域に寄付することもできると知りました。

私は、幼い頃に東日本大震災が起こり、生まれ育った栃木県から大分県へと移住しました。震災があり、移住した後、父から、震災によって多くの被害があったから九州に来たんだよ、と話してくれたのを覚えています。福島県、栃木県などの東北地方は、地震や津波、火災といった災害の影響で普段とはまるで違う景色になっていたと聞かされました。祖父母が住んでいる福島県もその一部であり原発事故による放射能漏れの問題がさらに追い打ちをかけ、農産物や特産品まで影響が及んでいました。父が取っておいてくれた当時の新聞や写真を見ると現実かと思いたくなるようなものばかりでした。

私は普段の何気ない日常がどれだけ貴重なものであったかが分かりました。そして、普通の生活がどれほど簡単に奪われてしまうのかを実感しました。それでも、十三年が経過し、今では福島の農産物も安心して食べられるようになり、地域も復興してきています。私の祖母も、福島からさくらんぼや桃、林檎といった旬の果物を送ってくれるようになりました。祖母から果物を受けとるたびに、ふるさとがどんどん元気を取り戻していることを感じられます。

しかし、復興が進む反面、未だに多くの人々が避難生活を続けており、特に若い世代の人離れによる人口減少が深刻な問題となっています。こうした現状を知り、私はふるさと納税をするなら、多くの寄付はできませんが絶対に生まれ育った福島県や栃木県に寄付をして、少しでも貢献したいと強く思うようになりました。

ふるさと納税は、私たち一人ひとりが自分の意思で地域を支えることができる制度です。この制度を通して、自分が生まれ育った場所や、大切な人たちが暮らす地域に対して、少しでも恩返しができると思います。そしてふるさとが再び元気を取り戻し、活気あるより良い町になることを心から願っています。